

報道発表

2019年3月29日

Chordia Therapeutics がシリーズ B ラウンドで約 30 億円の資金調達を実施

がん領域に特化した研究開発型創薬企業 Chordia Therapeutics 株式会社 が、シリーズ B ラウンドにおいて約 30 億円の資金調達を実施

がん領域に特化した研究開発型ベンチャー企業である Chordia Therapeutics 株式会社(以下「当社」)(代表取締役:三宅洋、所在地:神奈川県藤沢市)は、このたびシリーズ B ラウンドにおいて、京都大学イノベーションキャピタル株式会社(以下、京都 iCAP)と株式会社ジャフコをリード投資家とし、新生キャピタルパートナーズ株式会社、三菱 UFJ キャピタル株式会社、SMBC ベンチャーキャピタル株式会社、および日本ベンチャーキャピタル株式会社を引受先とした第三者割当増資により、総額約 30 億円を調達することをお知らせいたします。本資金を活用し、当社の主要抗がん剤候補であり第 I 相臨床試験を実施中の選択的汎 CDC 様キナーゼ(以下、「CLK」)阻害剤 CTX-712 の臨床開発や、その他の抗がん剤候補の前臨床試験を行ってまいります。

当社代表取締役である三宅洋は、次のように述べています。「今回の増資により、当社パイプラインの臨床開発および前臨床試験を加速化できることを大変うれしく思います。一日も早く、がんと闘う患者さんに画期的な治療薬をお届けすることが、当社の使命です。CLK はスプライシングを制御するキナーゼであり、前臨床の薬理試験の結果から CLK 阻害剤 CTX-712 はスプライシングに異常が生じているがん細胞を選択的に死滅させることが期待されています。これまでの抗がん剤とは全く異なる、新しい作用機序を有する CTX-712 の第 I 相臨床試験では、主に安全性と薬物動態の評価を行いながら、がんへの治療効果も検証していきます」CTX-712 の臨床試験の詳細については、<https://www.clinicaltrials.jp/cti-user/trial/ShowDirect.jsp?clinicalTrialId=21988>にてご確認ください。

当社取締役であり京都 iCAP インベストメントオフィサーの上野博之は、「今回の増資により研究開発が加速され、Chordia の抗がん剤候補ががん患者さんとそのご家族の福音となることを望んでいます。また、患者さんを中心とした産官学連携による研究開発により、Chordia が日本を拠点とする世界的バイオベンチャーに成長することを期待しています」と述べています。

当社は 2017 年 10 月に武田薬品工業株式会社の湘南ヘルスイノベーションパーク(以下、「湘南アイパーク」)において設立され、シリーズ A ラウンドで調達した約 12 億円の資金を用いて CTX-712 の第 I 相臨床試験を 2018 年 11 月に開始しました。また、CTX-712 に加えて、前臨床段階にある抗がん剤候補として MALT1、GCN2 および CDK12 に対する阻害剤をパイプラインに有し、湘南アイパークの整備された実験環境の中で創薬研究を行っています。

MALT1 は T 細胞や B 細胞の抗原受容体から転写調節因子 NF- κ B にシグナルを伝達するプロテアーゼであり、この活性を阻害することによりがん細胞の増殖を抑制する作用が期待されています。CDK12 は mRNA の転写伸長に関与するキナーゼであり、DNA 相同組換え修復を担う複数の遺伝子の転写を制御することにより、がん細胞の生存・増殖を抑制することが期待されています。GCN2 はアミノ酸欠乏に応じてタンパク質合成を制御するキナーゼであり、アミノ酸欠乏を誘導する薬や癌免疫に関わる薬との併用により、がん細胞の増殖を抑制する作用が期待されています。

三宅洋は、「当社は、アンメットメディカルニーズの高いがん治療薬の研究開発を強力に推進しています。CTX-712 に次ぐ 2 番目の抗がん剤候補 MALT1 は現在前臨床試験を実施中であり、2020 年中の臨床試験の開始を目指しています」と述べています。

このリリースに関するお問い合わせは info@chorditherapeutics.com までお願いいたします。

以上